

令和 8 年度 第 1 回 温海地域振興懇談会 会議録概要

○期 日	令和 8 年 9 月 15 日（火） 午後 2 時～午後 3 時 27 分
○会 場	鶴岡市温海庁舎 6 階大会議室
○出席者	五十嵐 收一会長、飯塚 厚司委員、三浦 英喜委員、佐藤 容介委員、 佐々木 真人委員、本間 栄子委員、野尻 晶委員、佐藤 智子委員、 本間 真由美委員、本間 久美委員（10 名）
欠席者	鈴木 伸之助委員、佐藤 宣夫委員、五十嵐 美穂委員、片岡 正孝委員、 五十嵐 潮委員（5 名）
市側出席者	【温海庁舎】 木村支所長 （地域づくり推進課） 伊藤地域づくり推進課長、 佐藤課長補佐、 五十嵐課長補佐、五十嵐地域づくり専門員、本間地域振興支援員 （産業建設課） 渡部産業建設課長、中村主査 【企画部】 （地域振興課） 佐藤専門員
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	1 名
○次 第	1. 開 会 2. あいさつ 五十嵐会長 木村支所長 3. 交代委員紹介 4. 副会長の選出について 5. 報 告 (1) 令和 7 年度第 2 回温海地域振興懇談会で出された意見への対応について 報告資料 1 6. 意見交換等 (1) 令和 8 年度温海地域主要事業について 意見交換資料 1 (2) その他 7. その他 8. 閉 会

4. 副会長の選任について	
	副会長 三浦 英喜 委員（出羽商工会温海支部代表理事） ※事務局提案により承認。
○委員発言の概要	
5. 報 告	(1) 令和7年度第2回温海地域振興懇談会で出された意見への対応について
A委員	・自主共聴組合の老朽化したテレビ受信施設に代わり、防災行政無線等の機能も一体化した仕組みを構築することで、住民の負担を軽減しながら、テレビを安定して視聴できる環境を整備できないか。
伊藤地域づくり推進課長	・テレビ視聴と防災行政無線は、仕組みが異なる別物として考えなければならない。テレビの難視聴対策として、国でテレビ視聴環境の確保に向けた現地調査・計画策定支援をしており、自治会と応募を検討している。採択されれば、専門家が現地調査を行い、設備の状況や受信環境を踏まえて、今後の視聴方法の選択肢や必要な対応など、今後の計画づくりのサポートを受けられる。
I委員	・コスモキャストを活用することになったらこれまでどおりに防災行政無線は聞けなくなるのか。高齢者が多く、携帯電話を持っていない人に情報が届かなくなるのではないか。
伊藤地域づくり推進課長	・既存の防災行政無線については、夕方6時20分の定時放送を含め、これまでどおり運用していく。コスモキャストは、防災行政無線の放送内容をスマートフォンでも確認できるものであり、既存の防災行政無線に新たに追加された機能として理解していただきたい。
五十嵐 収一会長	・昨年度、小岩川集落でコスモキャストの実証実験を行ったが、特に不都合はなかったようである。今後、各集落で活用が進んでいけば、利用方法についても理解が深まっていくのではないかと思う。
伊藤地域づくり推進課長	・報告資料3頁の地区限定放送については、各集落に専用の番号が付番されるため、各自治会でトランシーバーのような配信端末を購入し、コスモキャストに対応する設定を行えば、集落内の住民だけに配信することが可能となる。運用については防災安全課と検討中である。
A委員	・配信端末は、各自治会で購入しなければならないのか。配信端末については「各コミセン等に配備」と記載されているが、自治会単位での配備は考えていないのか。
伊藤地域づくり推進課長	・温海地域についてはコミセンがなく、4地区自治会に各1台ずつ配備しても

進課長	活用が難しいことから、基本的には配備しない予定である。 ・自治会単位で配備すると、市全体で数百台が必要となり対応が難しいことから、コミセン単位での配備とした。 ・今後、有線放送に代わる情報伝達手段となり得ることを考えると、集落で購入するという方法もあるのではないかと思います。配信端末も1台約10万円と聞いている。有線放送設備の更新費用と比較して考えた場合、配信端末を購入するという選択肢もあるのではないかと考える。
C委員	・世帯数の少ない集落においては、配信端末の購入を断念せざるを得ない場合も想定される。集落の規模にかかわらず、すべての集落が平等に取り扱われることを望む。
A委員	・経済的な理由からスマートフォン等を所有・利用できない高齢者もいることを踏まえ、情報格差が生じないように必要な対策について検討してほしい。
伊藤地域づくり推進課長	・コスモキャストは、情報伝達手段として、既存の防災行政無線に機能を追加するものであり、隣近所での声掛けなど、共助による情報共有についてもお願いしたい。
6. 意見交換等	(1) 令和8年度温海地域主要事業について
D委員	あつみ温泉の桜並木について ・あつみ温泉の桜並木の植え替えについて、令和4年まで実施していたがその後行われていないが計画はあるのか。
渡部産業建設課長	・現時点で桜の植え替えに関する要望や新規計画はない。
F委員	No.1 温海地域支援ネットワーク推進事業について ・「あつかん」の首都圏における広報活動について、地域住民からは活動内容がほとんど見えない。地域住民が「あつかん」の活動を知るためには、どのような媒体や情報源を確認すればよいのか、 ・鍋倉自治会では、雪灯籠祭の開催にあたり、「あつかん」から協力をいただいている。一方で、受け入れ側の鍋倉自治会では、「あつかん」がFacebookでどのような情報発信を行っているのか、また、情報発信を通じて参加者が何人程度集まっているのかについて把握できていない状況と聞いている。今後は、情報発信の内容や参加者の状況などについて、「あつかん」と受け入れ側の自治会と情報共有を行い、連携しながら取り組んでいくことが望ましい。 ・「あつかん」の温海地域在住のメンバーが4名から3名になった。1名減の理由を教えて欲しい。

伊藤地域まちづくり推進課長	・「あつかん」では、首都圏に住む若者を対象として、Facebook のグループページ「ときどき、あつみ」を開設している。地域で開催されるイベント等の情報を Facebook で発信し、それを見た若者が実際に地域を訪れることにつながっていると考えている。
佐藤地域づくり推進課長補佐	・「あつかん」の温海地域在住メンバーが 1 名減となった理由は、個人の都合による退会とのこと。ただし、関係人口の方々が地域を訪れた際には、引き続き協力してもらえると聞いている。
F 委員	No.6 温海地域生きる力を育む教育推進事業について ・11/7 開催のかえつ有明中高等学校の佐野副校長と三森氏の対談の会場が、温海ふれあいセンターから出羽庄内国際村に変更になった理由を教えてください。
伊藤地域まちづくり推進課長	・参加対象を温海地域に限定するのではなく、より広い範囲に SEL を取り入れた取組を知ってもらいたいという意図から、会場を出羽庄内国際村に変更した。
C 委員	No.20 道の駅あつみ移転整備事業について ・道の駅あつみ「うえるかぶ」の開業見通しが伝わってこないが、現時点での開業の目途と公表時期はいつごろか。 ・「うえるかぶ」の開業時期の変更に伴う、しゃりんの営業見通しを伺いたい。
渡部産業建設課長	・今年の春に周知のとおり、開業が遅れていることが決定しているが、見込みとしては来年夏ごろ。今年 11 月ごろまでには何月に開業という目途をお示しできる見込み。 ・しゃりんの営業については、うえるかぶの開業遅れに合わせ、繰り延べしての営業を㈱クアポリス温海で検討していると伺っている。
D 委員	・うえるかぶは地域活性化の起爆剤として期待されている。農産物の販売はしゃりんの初代駅長も苦慮していた。
渡部産業建設課長	・しゃりんの販売商品は、今年テレビの全国放送で取り上げられ、売り上げが伸びている。 ・農産物の販売については、温海産の産物が少ないことが現状の大きな課題であるため、地域に出向いての説明会による生産者の掘り起こしのほか、温海地域外の方からの納品についても運営事業者と検討していく。
H 委員	No.22 温海公園整備事業について ・現在バラ園の改修工事が行われているが、工事に伴い既存のばらは処分されてしまったのか。

渡部産業建設課長	・一部鉢植えをして保管している。既存のばらは古い品種が多数のため、既存品種を活用しながら、現在流通している新規品種への植え替えも行っている。
B 委員	・バラ園の指定管理者について、用途は立っているのか。
渡部産業建設課長	・今月中に公募の予定で進めている。進め方として、公募後に応札がない場合、地元への打診を行う。単に施設の運営を行うものではなく、バラに対する知識や経験を重視した選定を行う。
F 委員	No.8 防災情報伝達手段強化事業について ・温海地域独自にアプリの導入方法や利用方法について、説明会を実施する予定とのことであったが、説明会は集落ごとに実施するのか、それとも地区自治会ごとに実施するのか。 ・温海庁舎にアプリの使い方等について相談できる窓口を設置する予定はあるか。温海ふれあいセンターでは、生涯学習事業の一環としてスマートフォンの相談窓口を設けており、基本的なスマートフォンの操作方法等について、個別に相談を受ける対応を行っている。コスモキャストが導入された場合には、その利用方法等についても相談が寄せられることが想定されるため、アプリの操作や利用方法に関する相談については、庁舎側で対応いただきたい。
伊藤地域まちづくり推進課長	・コスモキャストの導入は全市的に進めるため、防災安全課では、地区自治会ごとに説明会を実施する予定としている。庁舎としては、それだけでは十分ではないと考えており、自治会から要請があった場合には、職員が自治会に出向き、アプリの導入や利用方法について説明会を実施する予定である。 ・現時点では、庁舎にコスモキャスト専用の相談窓口を設置する予定はない。利用方法等について相談がある場合は、電話等で問い合わせいただければ対応する。また、温海ふれあいセンターにコスモキャストの利用方法等について相談が寄せられた場合には、庁舎側へつないでいただき、庁舎で対応することとしたい。
H 委員	・以前、小岩川でコスモキャストを利用できていたが、現在も利用することができるのか。
伊藤地域まちづくり推進課長	・昨年度、試験的に小岩川でコスモキャストを導入した際には、郵便番号を単位として運用していた。今回は、集落ごとに番号を付与して運用する予定となっているため、その対応に伴い、現在は小岩川で利用できない状況となっている。
五十嵐 収一会長	・コスモキャストの導入については、情報伝達手段として多くの方が関心を持っていることから、引き続き導入に向けた取組を進めていただきたい。

G 委員	情報発信について ・地域住民に対し、地域内外で活動する若者の取組や、地域でどのような活動が行われているのか等について、十分に情報が届いていない状況がある。地域に住む方々にも地域のさまざまな取組を知ってもらえるよう、地域内の情報が届くような情報発信にも取り組んでほしい。
木村支所長	・交流人口や関係人口など、外向けの情報発信だけでなく、地域内の住民にも地域の魅力や良さを知ってもらえるよう、地域内外の双方に向けた情報発信にしっかり取り組んでいきたい。
D 委員	No.10 温海地域支え合い訪問活動事業について ・事業に感謝している。老人クラブの現状は、温海地域の人口 6,000 人(R8.8 月末温海地域人口 5,546 人)のうち半分が高齢者であり、うち老人クラブの会員は 300 人、9 クラブである。温海温泉の老人クラブは、会員は 25 人だが、10 人を集めるのがやっとであり、80 歳近くが大半である。若い人たちが入って来ないため、今後、老人クラブ活動をどうするかが大きな問題である。その代わりとなるサロンなど地域の住民の中で活動していただければと思う。我々の老人クラブがこのような状況のため、もっと幅を広げて取り組んでいただければと思う。
伊藤地域づくり推進課長	・この事業は、老人クラブの組織がないなど、集まる機会の少ない集落を対象にして進めており、ひきこもり防止やフレイル予防(介護予防)を目的としている。最初は、行政が関わるが、自治会単位で自らの取り組みとして、例えば百歳体操に取り組むなど促して行きたい。自治会単位で取り組んで行くという姿を目指している。
I 委員	高齢者の福祉サービスについて ・五十川の清流苑が廃止となる。(R9.2 月末事業廃止、R9.3 月末賃貸契約解除)。今までは近くにあったが、利用者は、温寿荘かとうらのデイサービスを利用するかになる。今後、高齢者はどんどん増えて行くと思うが、閉校した小学校の施設を活用した施設を作る予定はあるか。 ・五十川で日曜日(R8.9.13)敬老会をしたが、75 歳以上が 92 名で五十川の人口の約 45%であった。若い人は外に出て行く。一人暮らしの年寄りが多くなっている。デイサービスを利用する方も多くなると思う。今後、そのような施設が旧温海町にも増える予定があるのかお聞きしたい。
伊藤地域づくり推進課長	・今のところ、福祉サービスを提供する施設を増やすといった情報はない。実際に高齢者人口は減り始めている。また、介護施設の経営は厳しくなっていると伺っている。今後、廃校を使った体育館は活用の可能性があるにしても介護サービスを提供するという情報はない。

A 委員	地域の未来を語る場づくりについて ・道の駅の跡地利用の検討にとどまらず、誰でも気軽に集まり、地域の将来について考えたり、夢を語るなど自由に意見や思いを語ったりできる場があるとよい。また、「どのようなことをすれば人が集まるのか」という視点を持って、誰もが気軽に立ち寄ることのできる場所をつくっていくことが大切だと思う。
F 委員	No.1 温海地域支援ネットワーク推進事業について ・シルバーウィークの連休に子育て世帯を対象としたイベントがあると聞いている。子育て世帯以外でも参加可能であれば、「こうしてほしい」「こうなってほしい」といった思いを持つ方にも、ぜひ参加していただきたい。
佐藤地域づくり推進課長補佐	・「温海庁舎からのお知らせ」に掲載した、東大生が企画したワークショップを9月21日に午前の部と午後の部に分けて実施するので、多くの方に参加していただきたい。
F 委員	・昨年度まで地域おこし協力隊として活動していた鈴木けいさんが、今年4月からコミュニティスペース「トーチてらす」を運営している。地域の交流や活動の場として、ぜひ皆さんにもご利用いただきたい。チラシは温海ふれあいセンターにも設置している。
C 委員	No.5 地域学校協働活動推進事業について ・あつみ地域未来塾について、通塾が困難な家庭への支援としてオンライン配信を検討しているとのことだが、会場で受講することで、本人の学習に対する意識や意欲が変わると考える。そのため、通塾しやすい環境の整備にも力を入れてほしい。例えば、事前予約制で、乗合タクシーの臨時便を運行するなど、移動手段を確保する方法も検討できるのではないかな。地域によって学習機会に差が生じ、他地域との学力格差が出ないように対応を期待する。 ・市全体の予算で300万円ほどだが、温海地域には予算がどれくらい配分されているのか。
伊藤地域づくり推進課長	・温海地域に配分されている予算がどれくらいかは把握していないが、未来塾の講師料や生徒の保険料などを支出している。温海地域の特徴ある取組については予算を確保するように努めている。
E 委員	No.4 温海地域公共交通運営事業(乗合タクシー運行事業)について ・JR 及び路線バスの定期券を利用し通学する中高生の乗合タクシーの利用について、無料化または減免の方向で調整中と聞き、大変良い取組だと感じた。 ・現在、高齢者に対しては乗合タクシーの利用について周知が進められている一方、中高生を持つ保護者からは、「乗合タクシーの存在自体を知らない中高生

伊藤地域づくり推進課長 7. その他	が多い」との声も聞かれる。高齢者だけでなく、中高生をはじめとする幅広い世代に対して、乗合タクシーの利用方法などの周知をしていく必要がある。 ・乗合タクシーについては、主に高齢者の移動手段の確保を目的として運行しており、時刻表も高齢者の利用を前提とした設定となっている。そのため、例えば、高校生が朝、電車に乗るために駅へ向かう時間帯には運行できていない状況である。一方で、通信制高校に通う生徒など、乗合タクシーを利用できるケースもあることから、こうした生徒の移動をどのように支援できるかについて検討している。中高生や子育て世代を含め、どこまで対応できるかという課題はあるものの、高齢者だけでなく、幅広い世代の移動手段としての活用も意識しながら、今後の運行や支援の在り方を検討していく必要があると感じた。 (2) その他 ・協議事項等なし ・特になし
--	---